

すべての人が 安心して暮らせる 社会をめざして

「みんなと住みなれた町で幸せに生きたい。」それは誰もが願うこと。障害があってもなくても、その願いはみんな同じです。

問 県庁障害福祉課 ☎073-441-2533

学ぶ

「いったぞー!」「ナイスキャッチ!」
ティーパーティングを楽しむ声が校庭を飛び交います。

県立紀伊コスモス養護学校には、小学部、中学部、高等部あわせて210名の児童生徒たちが学んでいます。

子どもたちは、学校生活を通じて生活する力、社会へ出て行く力を身につけるなど、よりよく生きるために必要なことを学んでいます。

宮本校長は「学校では、子どもたちが生活しやすいように環境を整えられ、それぞれの子どもに応じた取組が行われていますが、社会へ出ると当然ながらそうもいきません。こうしたギャップは解決すべき課題の一つであり、これを解消することは、結局、みんなが暮らしやすい社会の実現につながるんだと思います。」と話してくれました。

また、学校では、オープンスクールやボランティア講座を開催するなどして、地域との交流を活発に行っています。

宮本校長によれば、「ボランティア講座に参加した高校生から『手助けしようと思っ

て参加したが、そうではなくて、楽しい時間を一緒に過ごす中で、互いに学び支え合うことが大切だと気づきました。』という感想が寄せられました。障害があるからといって支援してもらえばいいわけではありません。子どもたちが発信できることもたくさんあります。もっと交流を深め、少しずつでもみんなの意識が変わればと考えています。」



働く

「がんばって仕事をしています。」
今年4月から、済生会有田病院で、看護助手として障害のある2人は、働いています。

済生会有田病院が、2人を雇用するきっかけになったのは、県立たちばな養護学校の校長先生の熱いアタックでした。

まず、在学中に何度か実習を経て、卒業後、ジョブコーチ支援制度を活用して、正式雇用になりました。

指導担当職員の方は、「試行錯誤をして指導方法を考えました。また、その時の指導方法は、これからのすべての新規採用職員に対しても効果的な方法であることに気づきました。」

2人が一所懸命に仕事をしている姿は、周りの職員には良い刺激になっていました。」と話してくれました。



2人からの一言

— 今の仕事の内容は
患者さんの周辺の掃除、シーツ交換です。
— 働いてよかったこと
お給料がもらえ、友達と服を買いに行ったりカラオケに行ったりできることです。
— 仕事をしていて楽しいことは
初めは、先輩の方とうまくコミュニケーションがとれませんでしたでしたが、今は、一緒に仕事をしておしゃべりすることがとても楽しいです。
— 今後の目標は
今の仕事を、きちんとできるようにすることです。
それから、次のステップに進みたいと思います。

暮らす

グループホームでの共同生活

「今日の夕食はおいしかったな。」

感謝の気持ちが自然と出る家庭的な雰囲気。地域での生活には不安や悩みは付きものですが、支援スタッフや地域の支えを受け、多くの人たちがグループホーム、ケアホームで共同生活を送っています。

グループホーム利用者の声

「趣味はカラオケ。たまに行って思いっきり歌います。」
パチンコ、将棋、散歩など趣味は様々。
休日は思い思いの過ごし方をしています。

「朝の出勤は7時30分です。」

「私は8時です。」
朝も早く日々の仕事は大変ですが、それぞれの職場で一所懸命がなっています。



「皆一緒にご飯を食べること、めったにないなあ。」
食事も自分のペースで。お互いのライフスタイルを尊重した共同生活です。

「将来は単身生活をめざしている仲間もいます。」
グループホーム、ケアホームでの経験を踏まえ、それぞれが将来の夢や目標を胸に抱いています。

支援スタッフも、そんな思いを表現すべく、ともにがんばっています。



「施設を出て地元で暮らしたい。」障害があっても将来は独立して生活したい。

県では、障害のある人それぞれの思いを受け止め、暮らしたい場所で暮らせるよう、グループホーム、ケアホームの質的、量的確保に取り組んでいます。

競う・楽しむ

「人とのふれあいを楽しんでいます。」

スポーツは障害のあるなしに関わらず、健康維持や体力増進につながるだけでなく、お互いに助け合い、喜びを共有できる素晴らしいものです。

障害者スポーツとは、障害者のために特別に考えられたものだけではありません。誰もが楽しんでいられるスポーツに少し工夫を加えて、同じような障害や年齢の人たちで競えるようにしたものです。

陸上競技では、車いす使用者に「レーサー」と呼ばれる競技専用の車いすが認められていたり、卓球競技では、視覚障害のある人を対象にサウンドテーブルテニスという種目があり、専用の台で金属球の入ったボールを転がし、その音を頼りにラケットで打ち合います。

障害者スポーツには、いろいろな種目がありますので、一人でも多くの方に参加して楽しんでいただければと考えています。

県では障害者スポーツの振興を図るために次のような事業をしています。

- ・ 県障害者スポーツ大会、フレンドシップ、ゆうあいスポーツフェスタなど各種スポーツ大会の開催
- ・ スポーツを身近に楽しんでもいただくために、スポーツ教室を開催
- ・ スポーツ指導員を派遣
- ・ スポーツ指導員の養成



第7回全国障害者スポーツ大会 和歌山県選手団 主将 谷 禎さん



秋田県で10月に開催された第7回全国障害者スポーツ大会にフライングディスク競技で出場しました。みんなの支えがあったおかげで金メダルをとることができ、とても良かったです。

私にとってスポーツをすることの魅力とは、体を動かすことで肉体的に元気になるということだけではなく、若い人をはじめ大勢の人たちとふれあい、感動や楽しさを共有できることにあります。

今後は、障害者スポーツの素晴らしさを若い人たちに伝えていきたいと思っています。
また、スポーツをしたくてもどこに行けばいいかわからない人もたくさんいると思うので、そのような人たちの相談にのって障害者スポーツを広めていきたいと考えています。

そして、私自身今後ともスポーツを楽しんでいきたいと思っています。